

# くらしの文化財探索 1

厚木市郷土資料館

一四三〇〇〇三 厚木市寿町三十五・二十六

「くらしの文化財」とは何でしょうか。文化財として国や県、市町村から指定されていなくとも「ふるさと」にとって大切なものはたくさんあります。あつぎに暮らす者として「民俗文化財」とは何かどのような意味を持つのか、それを「くらしの文化財」資料から実感し、興味を深めていきます。自分自身の日常生活、生活慣行を、民俗文化財としてみなおすためのヒントとなるような講座を目指しています。

\*

今年度の探索会は、小学校四年生が学ぶ「変わってきた人々のくらし」に関する展示を作り上げる中で、くらしの文化財を考えるものとして企画いたしました。会員の方々の孫、子どもの世代である小学生に対し、自分たちのくらしがどう変わってきたのかを「資料」によって説明し、伝えることで、私たち自身もくらしへの理解を深めていくという狙いです。

五月十二日に行われた第一回目の会では、会員の皆さまに小学四年生になっていただいたつもりで、郷土資料館が「出前展示」と称して毎年行っている「むかしの道具 むかしのあつぎ」を見学していただき、

担当者による出前講座を聞いていただきました。

会員一人ひとりの思いと、学習の狙いや目当てが一致するかどうかなど、「学習展示」としては考えるところはいろいろあるかと思いますが、大枠として「衣・食・住」そして学ぶ」を中心とした資料を取り上げるといって皆さんの同意が得られました。お話の後で、自己紹介と感想を述べていただきましたが、「学ぶ」があるのだから「遊ぶ」があってもいい、使用年代を可能な限り明確にした方がいい、

都市部ではタライを行水に使うなど地域差もある、等などの鋭い指摘がありました。これらの点は、展示計画に活かしていきます。次回は、大磯町郷土資料館の佐川和裕学芸員に、「衣類を展示する」ことの課題、ポイントを私たちの展示に即して話していただきます。

\*

博物館は、学芸員が企画した展示を催すだけの場所ではなく、市民の活動がメインになってきています。そして地域博物館の存在理由はそこにあると考えられます。私たち「くらしの文化財探索会」の展示は、こつした流れの一環にあるといえます。

(担当 大野)